国登録有形文化財制度からみた蚕糸関連建造物の保存と活用のあり方

～伊勢崎市・境島村の養蚕民家群への提言～

城西国際大学観光学部教授　佐滝　剛弘

1　研究の実施状況

（1）研究期間　2020年８月～ 2021年１月

（2）実施場所　群馬県境島村／富岡市ほか

（3）参加人数　本人１名

（4）研究内容

群馬県伊勢崎市境島村地区は、大型蚕種製造農家が群で残る日本でほぼ唯一の貴重な集落だが、世界遺産の構成資産となった田島弥平旧宅以外の保存・活用が進んでいない。2018年ごろからようやく国の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）への模索が始まったもののエリア全体の同意が必要であるため、現在、個別に登録有形文化財への登録が始まったところである。こうした農家群をどのように保存・活用していくか、養蚕民家を農家民宿として活用している群馬県富岡市中沢の民家や養蚕民家群が重伝建となっている山梨県甲州市下小田原上条地区などの取り組みをもとに提言を行う。

2　研究の成果

・境島村地区の現状のヒアリング

栗原知彦さん（境島村蚕種の会会長）

島村地区のこれまでの取り組みや住民の意識をヒアリング。現在は、登録有形文化財の登録を目指せるところから申請。2020年11月に３棟が答申。その後も２棟が予定。いずれ重伝建選定も視野に。県外では登録有形文化財を先に行い、のちに重伝建に選定された地区として、茨城県桜川市真壁などの先進事例がある。

・富岡市中沢にある農家民宿「ひなた」に実際宿泊しながらヒアリング

浦野公男さん夫妻は、代々の養蚕民家を２年前から民宿に。様々な農業体験を行えることを売り物に。単独では団体を受け入れられないので、現在別の場所にゲストハウスを設けているが、いずれはこの地区でまだ残る養蚕民家も活用を促し、地域としてのネットワークを作りたいという希望。

・全国各地の蚕糸関連の重伝建の登録有形文化財の視察・調査（予算の範囲外だが同時期に実施）

① 甲州市下小田原上条地区

甲州盆地独特の「突き上げ屋根」を持つ茅葺切妻造民家が十数棟密集。斜面に広がる景観も併せて保存。中心部の民家１棟を「甲州民家情報館」（管理はNPO）とし、一日一組宿泊可能。駐車場、パンフレットも完備。

② 兵庫県養父市大屋大杉地区

地区全体で３階建ての養蚕民家などが100棟以上残存。うち、重伝建エリア内に27棟（３階建ては12棟）がある。地区内で、養蚕民家を利用した宿泊施設、カフェ、雑貨の店などが展開。宿泊施設は、築130年以上の養蚕住宅２棟を改修して「古民家の宿」として提供。また、「養蚕とアート」を柱とした地域づくりが進行中。

こうした地域の例から、やはり地域全体で核となる施設や人を呼ぶ「テーマ」を設定し、それに沿った地域づくりが必要で、行政のバックアップと活動を牽引する住民組織やNPOなどの外部の応援団が不可欠。

写真１　山梨県甲州市下小田原上条地区　遠景

写真２　下小田原上条地区の見学者向け案内板

写真３　兵庫県養父市大屋大杉地区の景観

写真４　大屋大杉地区の養蚕民家を利用した宿泊施設

写真５　富岡市中沢の養蚕民家を利用した民宿の前で経営者の浦野夫妻